

預金・貸出金の状況

● 預金について

当金庫は、お客さまとの預金取引におきましては、小口多数主義を基本方針とし営業基盤の強化に努めております。

2021年9月末の預金残高は、1,443億64百万円となりました。

これは、2020年9月末に比べて107億87百万円(8.07%)の増加、2021年3月末に比べて202億87百万円(16.35%)の増加となりました。

今後も小口多数取引に徹し、地域のお客さまのニーズにお応えする預金取引に積極的に取り組んでまいります。

● 貸出金について

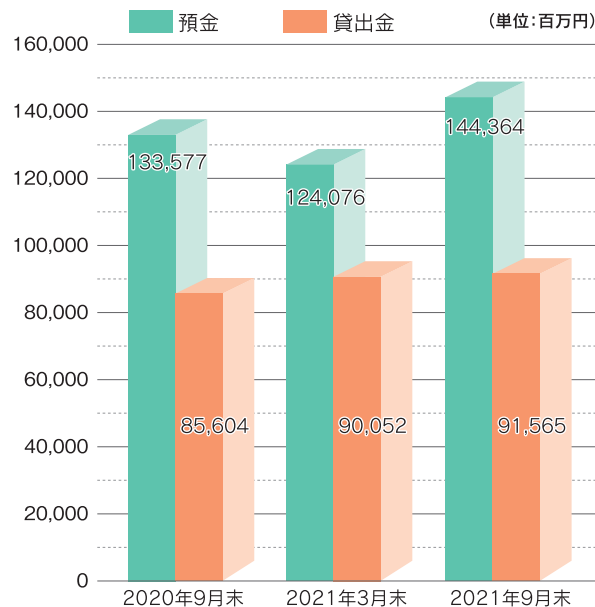
当金庫は、「地域金融機関」として中小企業並びに個人のお客さまを中心とした融資の推進に重点的に取り組んでおります。

2021年9月末の貸出金残高は、915億65百万円となりました。

これは、2020年9月末に比べて59億60百万円(6.96%)の増加、2021年3月末に比べて15億13百万円(1.68%)の増加となりました。

今後も地域のお客さまのお役に立つ融資に積極的に取り組んでまいります。

■ 2021年9月末の預金に占める貸出金の割合(預貸率)は、63.42%となりました。
《2021年3月末 72.57%》



貸出金の内訳

● 貸出金業種別内訳

貸出金につきましては、地域のお客さまからお預かりしたご預金を、ほぼ全業種にわたり地域のお客さまにご利用いただく構成となっております。

貸出金の内訳

(単位:百万円)

	2021年9月末	
	金額	構成比%
製造業	2,857	3.1
農業・林業	43	0.1
漁業	1	0.0
鉱業・採石業・砂利採取業	55	0.1
建設業	9,331	10.2
電気・ガス・熱供給・水道業	342	0.4
情報通信業	888	1.0
運輸業・郵便業	788	0.9
卸売業・小売業	9,627	10.5
金融業・保険業	2,060	2.2
不動産業	36,554	39.9
物品賃貸業	417	0.5
学術研究・専門・技術サービス業	3,357	3.7
宿泊業	345	0.4
飲食業	4,484	4.9
生活関連サービス業・娯楽業	2,946	3.2
教育・学習支援業	190	0.2
医療・福祉	896	1.0
その他のサービス	3,823	4.2
小計	79,019	86.6
国・地方公共団体等	974	1.3
個人	11,572	12.2
合計	91,565	100.0

(注)業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

参考

(単位:百万円)

	2021年3月末		2020年9月末	
	金額	構成比%	金額	構成比%
	2,961	3.3	2,948	3.4
	44	0.0	38	0.0
	1	0.0	1	0.0
	58	0.1	62	0.1
	9,316	10.3	8,847	10.3
	506	0.6	471	0.6
	868	1.0	828	1.0
	797	0.9	732	0.9
	9,049	10.0	8,378	9.8
	2,514	2.8	2,547	3.0
	35,366	39.3	32,026	37.4
	441	0.5	396	0.5
	3,297	3.7	3,148	3.7
	157	0.2	182	0.2
	4,568	5.1	4,493	5.2
	2,892	3.2	2,786	3.3
	190	0.2	172	0.2
	870	1.0	2,325	2.7
	3,879	4.3	3,727	4.4
	78,014	86.6	74,120	86.6
	1,025	1.1	1,076	1.3
	11,013	12.2	10,408	12.2
	90,052	100.0	85,604	100.0

有価証券の時価情報

(単位:百万円)

	2021年9月末			
	時価	評価差額		
		うち益	うち損	
その他有価証券	23,725	545	669	124
株式	514	36	51	14
債券	13,765	146	183	36
その他	9,445	361	434	72

(注)2021年9月末の「評価差額」は、2021年9月末時点の帳簿価額(償却原価法適用)と時価との差額を計上しています。

参考

(単位:百万円)

	2021年3月末			
	時価	評価差額		
		うち益	うち損	
その他有価証券	22,296	391	586	195
株式	361	28	35	6
債券	13,018	68	155	87
その他	8,915	295	396	101

(単位:百万円)

	2021年9月末			
	帳簿価額	含み損益		
		うち益	うち損	
満期保有目的の債券	2,013	76	76	0
子会社・関連会社の株式	—	—	—	—

参考

(単位:百万円)

	2021年3月末			
	帳簿価額	含み損益		
		うち益	うち損	
満期保有目的の債券	2,014	91	91	0
子会社・関連会社の株式	—	—	—	—

金融再生法ベースの債務者区分による開示

(単位:百万円)

	2021年3月末	2021年9月末 (A)	保全額(B)		保全率(%) (B)/(A)	引当率(%) (D)/{(A)-(C)}
			担保・保証(C)	貸倒引当金(D)		
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	454	367	316	51	100.00	100.00
危険債権	1,027	1,002	826	37	86.22	21.31
要管理債権	—	—	—	—	—	—
小計	1,482	1,370	1,143	88	89.92	39.09
正常債権	89,128	90,766				
合計	90,611	92,136				
不良債権比率(%)	1.64	1.49				

(注) 1.上記の2021年9月末の計数は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律施行規則」第4条に規定する各債権のカテゴリーにより分類しておりますが、集計方法については簡便な方法により集計しておりますので、計数は連続していません。
2.貸倒引当金には、正常債権に対する一般貸倒引当金を除いて計上しております。

●用語の説明

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

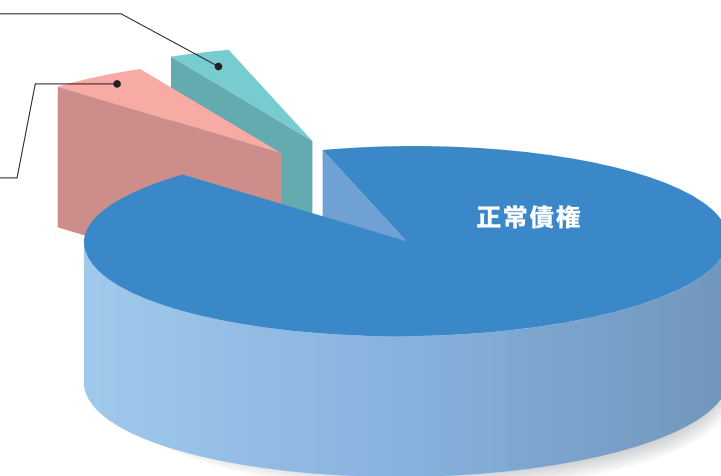
破産、会社更生、民事再生手続き等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。担保・保証及び貸倒引当金で全額カバーしております。

危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。担保・保証及び貸倒引当金で86.22%カバーしております。

要管理債権

自己査定において要注意先に区分された債務者に対する債権のうち、3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権に該当するものをいいます。これらの債権すべてが将来必ずしも返済不能になるものではありません。



(2021年9月末)

自己資本比率(国内基準)

金融機関の健全性を示す自己資本比率は、7.15%程度となりました。海外に営業拠点を持たない金融機関に対して、国が定めた健全性の目安である4.0%を大幅に上回り、健全性を維持しております。

今後も、業績の向上に努め、地域のお客さまのご期待に沿えるよう努力してまいります。

	(単位:百万円)	参考 (単位:百万円)
	2021年9月末	2021年3月末
自己資本の額	5,292	5,265
リスク・アセット等	74,014	71,477
自己資本比率	7.15%程度	7.36%

(注) 1.「リスク・アセット等」とは、リスクを有する資産(貸出金や有価証券など)を、リスクの大きさに応じて掛目を乗じ、再評価した資産金額のことです。
2.集計方法については、簡便な方法で集計しております。

損益の状況

●業務純益とは

金融機関の利益を見るうえの重要な指標で、預金・融資や為替業務等金融機関の本来の業務から生まれた利益です。

●実質業務純益とは

業務純益から一般貸倒引当金繰入額の影響を除いたものです。

●コア業務純益とは

実質業務純益から国債等債券損益を除いたものです。

●経常利益とは

業務純益に貸出金償却、貸倒引当金繰入額等の臨時損益を加減算したものです。

●当期純利益とは

経常利益に特別損益と税金等を加減算したものです。

	(単位:百万円)	参考 (単位:百万円)
	2021年9月末	2021年3月末
業務純益	217	331
実質業務純益	216	355
コア業務純益	223	295
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	174	226
経常利益	230	300
当期純利益	206	292